

(第3種郵便物承認)

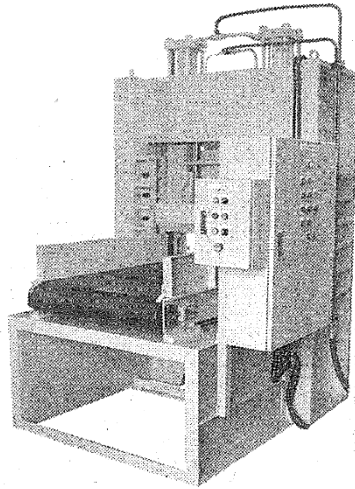
第1390号

エムダイヤ

パートナーを求める

廃プラ輸出を展開

高精度な分離・破碎機の製造・販売などを手掛けるエムダイヤ(富山県滑川市、森弘吉社長、☎076・476・0062)は、自社の機械で分離・破



エコカッター

砕した廃プラスチックの海外輸出を展開しており、新たなビジネスパートナーを求めている。本紙の取材で明らかにした。

独自の刃物構造による剥離技術で開発した「エコセパレ」シリーズ。金属やゴム、プラスチックなど異素材でできた使用済み製品を高い精度で破碎・分離し、後工程で選別する。加えて素材にケブラー繊維を使う「ファイバー」など切断が難しい使用済み製品を大量に切断する「エコカッター」シリーズも主力製品。

同社の強みは、鋼材の購入から溶断、溶接、機械加工、組立、塗装まで自社工場で一貫し

た生産体制を整備していること。最新鋭の工作機械を導入し、顧客の要望に応じた機械の造り込みが可能。会社やエンジンアリンク会社がほとんど介在しないため、顧客のニーズを迅速かつ的確に反映できる。

実際、顧客が工場を訪れ、製造現場を目の当たりにし、同社の技術力への信頼が高まるケースも少なくないという。取引先は、大手メーカー系列のリサイクル会社が全体の8割

を占めている。数年前から、廃プラスチックの海外輸出に着手。国内で引き取り手がないとの顧客の相談や要望に応じたもの。コンプライアンスに配慮し、建設業はじめ古物商、産廃の収集運搬や積替え保管、輸出入など必要な許可を

取得している。現在、北陸地域を中心にプラスチックの成型工場などから出るPPSやPBTといったエンブラ系の不良品や端材などを買い取り、同社の機械で破碎・分離し、資源化、海外に輸出している。

森社長は「中国の輸入規制の動向は気になるが、国内の廃棄物の量は長期減少傾向、国内市場は縮小する。東南アジアなど海外市場は成長が見込めるため、新たな事業の柱としていく。他社とのネットワーク構築も視野に入れていく」と述べている。

技術・製品・ユース／北から南から

4月16日 No.1390
2018年(平成30年)
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
〒925-8502 富山県滑川市
購読料 年 1冊 22,900円(税別)
(定額) 1部本体 495円(税別)

週刊 **循環経済新聞**
The Recycling Economy Times